



第3次 坂井市地域福祉活動計画 (かたいけのプラン)

アクションレポート

【令和5年度版】

～みんなが主役 ふだんのくらしのしあわせづくり～



社会福祉法人 坂井市社会福祉協議会

はじめに

坂井市での「地域共生社会の実現」を目指し、行政の「地域福祉計画」と連携しながら、推進を開始した「第3次かたいけのプラン（坂井市地域福祉活動計画）」も令和5年度は推進期間3年目を迎えました。

本年度は、第3次計画の中間年度として、活動実践に加え地域住民、ボランティア活動者、関係者等、多くの方々と、これまでの活動の振り返りや今後、坂井市で重点的に取り組んでいきたい活動など、今後の計画期間にむけての話し合いを行いました。

古くから、人々は助け合い、支え合いながら、地域で暮らす人々の生活をより良くするために様々な取り組みを行ってきました。しかし、時代や生活様式の変化とともに、そのニーズも変化し続けています。

現在、地域で取り組まれている福祉活動は、変化に立ち向かいながら、「ふだんのくらしのしあわせ」を願う『人の想い』を『カタチ』に進化・体現させたものであり、坂井市の多くの地域住民、ボランティア、関係機関等が協働しながら、共通の目標に向かって、活動を生み出し、実践し、第3次計画の推進を行っています。

本年度レポートでは、令和5年度の活動紹介に加え、計画の中間年度として、活動成果とともに今後の活動について話し合った「みんなの想い」もご紹介いたします。

すべての活動を紹介することはできませんが、この坂井市を支える「主役たち」の「想い」の一端を皆様にお伝えすることで、「ふだんのくらしのしあわせづくり」への理解と関心を深めていただければ幸いです。

最後に、本アクションレポート作成にあたり、本計画の推進検討にご尽力をくださいました推進委員会、支部社協委員会の委員のみなさま、本計画とともに地域福祉を支える「地域福祉計画」の推進を行っている行政のみなさま、そして、なにより、本年度、坂井市内で地域福祉活動にご尽力頂いている地域住民、ボランティア、関係団体のみなさまに感謝を申し上げます。

令和6年5月

社会福祉法人 坂井市社会福祉協議会

目 次

市地域福祉推進計画

アクションレポート 00

坂井市地域福祉推進計画	1
-------------	---

Topic

坂井市社協ボランティア市民活動センターの後期取り組みについて	4
--------------------------------	---

市推進計画 中間評価まとめ	10
---------------	----

支部住民福祉活動計画 中間評価まとめ

みくに支部住民福祉活動計画	13
---------------	----

まるおか支部住民福祉活動計画	15
----------------	----

はるえ支部住民福祉活動計画	17
---------------	----

さかい支部住民福祉活動計画	19
---------------	----

STORYS～ストーリーズ～

表紙を彩る主役たち	21
-----------	----

市地域福祉推進計画

【基本目標】

みんなが主役 ふだんのくらしのしあわせづくり

基本計画1

お互いさまのところで支えあえる人づくり

【実施計画1】 おもいあえる心を育てよう

●地域高齢者の居場所でボランティア活動

本年度の新たな福祉教育学習の取り組みとして、春江中学校の1年生が地域高齢者の居場所（通いの場など）に出向き、ボランティア活動を行いました。活動前には、地域のボランティア活動者の話も聞きながら、高齢者に楽しんでもらえるゲーム企画やプレゼントなどの準備を行いました。当日は、自分の住んでいる地区の近隣で開催している居場所で生徒と高齢者が交流を深め、生徒も地域の方々も笑いの絶えない時間を過ごしました。



～中学生のボランティアの様子～

【実施計画2】 福祉に関する広報・啓発をしよう

●ボランティア・市民活動センターPR 動画・チラシの作成



～センターPR チラシ～

坂井市社協ボランティア市民活動センターをPRする動画とチラシを作成、地域の会議やホームページ等で啓発を行いました。

動画では、センターに登録している活動者の方がいきいきと活動されている場面を紹介しています。

活動の輪が広がるきっかけとして、多くの方にご覧いただけるように今後も活用していく予定です。

【実施計画 3】福祉について学ぶ機会をつくろう

●「こどもの権利を考える 福祉映画会」開催

「こども基本法」の施行を契機に、「こどもの権利」について考える機会づくりとして、映画会を実施しました。

映画会では、「こどもの声を聞くこと」や「居場所があること」の大切さをみんなで学ぶ機会となりました。また、子ども食堂「大関居場所づくり～みんないっしょに～」の代表者 虎尾 正子さんからの活動報告もありました。

参加者からは、「こどもとの関わり方を考えるきっかけになった」、「おとなもこどももワクワク楽しい場所やイキイキできる場所があるといいな」という声もありました。



～福祉映画会の様子～

【実施計画 4】一人ひとりが活躍できる活動を地域ですすめよう

●学校の福祉教育学習で地元団体やシニアクラブが活躍



～「卓球バレー」体験会の様子～

三国南小学校の福祉教育学習の一環として、パラスポーツ「卓球バレー」体験会を実施しました。

当日の体験会では、坂井市卓球バレー協会の協力も得ながら、シニアクラブのメンバーがこどもたちと対戦し、福祉体験学習を盛り上げました。

ゲーム中には、高齢者がゲームのルールをこどもに教える姿やこどもたちが高齢者を気遣いボールを拾う姿など、それぞれがお互いを思いやる気持ちをもちながら活躍し、ふくしを学ぶ時間となりました。今後も今回の学習のように一人ひとりが活躍しながらできる活動を進めていきたいと思います。

【実施計画 5】福祉の担い手を増やそう

●ボランティアカフェの実施

気軽にボランティア活動を知ってもらうための機会づくりの新たな取り組みとして、あい愛まつりや子ども食堂など地域のイベントにて「ボランティアカフェ」を開催しました。「ボランティアカフェ」では、センター登録団体の活動体験ブースを設け、来場者と活動者が交流しながら、実際にボランティア活動を体験する機会となりました。体験への参加が活動のきっかけになるように、これからも様々な地域場で「ボランティアカフェ」を開いていきたいと思っています。



～ボランティアカフェの様子

坂井市社協ボランティア・市民活動センターの取組について

社会福祉法人坂井市社会福祉協議会は、地域福祉活動に必要なボランティア活動の啓発、推進を図ることを目的としたボランティア・市民活動センターを設置しています。

運営委員とともに、令和3～5年の取組みの振り返りとともに、ボランティア・市民活動センターの意義（目指すこと）を検討しました。

1 センターの取組で感じる良かったこと

<若年層の参加・関心>

- ・学校での福祉教育は、こどもたちへ活動を伝える取り組みができる
- ・こどもの参加する活動が増えた
- ・若い人がいるだけで（場の雰囲気）楽しくなった

<社会参加>

- ・居場所は、行くと活動に出会える重要な取組み
- ・ボランティア活動は趣味を見せられる場
- ・ボランティア活動に参加するということは外に出るきっかけになる
- ・南越前町への災害ボランティアバスが早く調整できたことが良かった
ボランティアの力が必要なところへ早期に調整できることは大切

2 センターの取組の課題

<若年層の参加・関心>

- ・こどもはボランティア活動に本当に興味があるのか
- ・学校のボランティアセンターへの認知度が低い
- ・若年層の参加・関心をどう集めるか
- ・若い世代（40・50代）はPTA活動など、地域に参加する活動や地域内でつながりをつくる機会が減ってきている

<活動者育成>

- ・仲間やメンバーづくりが難しい
- ・長年続けているボランティアの高齢化
- ・趣味を見せられる場など、生きがいとなるボランティア活動支援も重要
- ・ボランティア＝高齢者のイメージがある
- ・担い手が肝
- ・個人情報の問題が障壁となり、働きかけたい層へアプローチが出来ない
- ・ボランティアの啓発活動が必要

<社会参加>

- ・ボランティア活動に参加するきっかけや動機が難しい
- ・行事に参加したくても行けない人がいる
- ・高齢男性等の地域とのつながりづくりとして、役割づくりや社会参加の取り組み検討は大切ではないか
- ・見守り活動をしている福祉関係者（区長・民生委員児童委員・福祉委員等）と見守り活動をしているボランティア（高齢者への配食ボランティア等）との連携が必要

3 3つのキーワード

各キーワードで3つのグループに分かれて話し合いをしました

若年層の 参加・関心

若年層（こども）が
本当に興味があることは
何なのか？

- ・こどもの興味は固定化できない
- ・こどもは大人のお手伝いをする時も常に一生懸命で、誇らしげ、嬉しそう
- ・昔の自治会活動は少し強制だったが、今は自由で選択性。強制の活動は難しさもある一方で、当たり前活動として行う場合はハードルも低く感じられる
- ・大人とつながることで、可能性、社会性を広げることが出来る
- ・こどもとボランティアセンターとの間にいる親や先生などの関係人口も一緒に学ぶ

活動者育成

ボランティアの力が必要
なこと（または活動者を
増やして取り組みたい
こと）は何？

- ・福祉教育とは伝えていくこと
- ・自分たちのやっていることの楽しさを伝えることは、自己肯定感アップにつながる
- ・誰かのためにやっていることは最終的には自分にも返ってくる
- ・高齢者や大人（経験のある人）もできることがある
- ・活動が経験となり、気を配れるようになる
- ・学校にもボランティア活動の機会のニーズがあるのでは。
- ・こどものころの福祉活動への参加（あい愛まつりやわたぼうしコンサート）が福祉の仕事に就くきっかけになっている子に出会って感動した経験がある

社会参加

「ボランティア活動」を
何のきっかけにしたい
（またはどんな活動の場を
つくりたい？）

- ・気軽に参加できる社会づくり
- ・活動で人と人とがつながり、点と点がつながり線になる
- ・点がいろいろつながる⇒情報がたくさんくる⇒困っている人を支える仕組みになる
- ・自分のことが誰かのためになる
- ・小さな頃から知る福祉教育が先々のきっかけになる（文化として浸透させていく）
- ・こどもたちができるボランティアを作り出す
- ・障害の方も役割ややったこと、できたことの共有化や見える化⇒活動・営みの承認
- ・施設等のバリアフリー⇒不便を感じた人が自分と同じように不便に思う人がいないようにアクション・提言⇒これができるようになると社会変革やコーディネートできる人が増える

4 センターが大切にしたいこと

ボランティア活動で

- ・こどもの可能性と社会性を広げるきっかけに
- ・自分のやりたい活動や楽しい気持ちをだれかに届け、自分の元気のきっかけに

上記の3つのことを大切にするために、

相談受付・登録・広報はもちろんのこと

- こどもたちの活動のきっかけづくり（福祉体験・こどもかいぎ など）
- 気軽にボランティア活動者と出会える機会と体験の場づくり（ボランティアカフェ・つながり会など）
- 当事者や地域活動者とボランティア活動者の出会いの場づくり（支部社協委員会など）
に取り組んでいきます。

基本計画2 ふれあい、支え合いの地域づくり

【実施計画1】 誰もが集える居場所をつくろう

●通いの場・サロン実践報告会

本年度は「通いの場・サロン」の運営者が集まる連絡会にて、活動者の実践報告を行いました。

また、春江東部地区のふくしの会内でも各地区のサロン運営者が実践報告を行い、地域内の活動者自身が居場所の大切さを伝える場となりました。



～通いの場・カン運営者連絡会の様子～

●坂井市ウェブマップでの居場所紹介



坂井市のホームページ内で坂井市内の公共施設や位置情報を提供している「坂井市ウェブマップ」サイトにて、市内の「居場所・通いの場・子ども食堂」等の位置情報の提供が始まりました。

～坂井市ホームページ「WebMap」ページ～

【実施計画2】 ご近所の気がかりな人を早期発見しよう

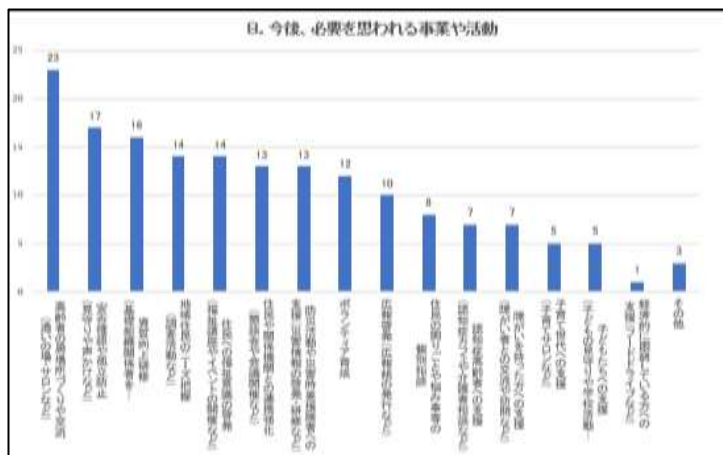
●活動についてのアンケート実施

令和４年度（調査期間：令和５年３月１４日～２８日）に地域福祉推進基礎組織（地区ふくしの会）の活動支援への活用を目指し実施した「活動調査」の分析を行いました。

調査結果からは、組織設立については、「連携」「気がかりな人の課題の把握」「住民への福祉の理解啓発」に対して特に効果を感じているということ、今後、必要と思われる事業や活動としては、「高齢者の居場所づくりや交流（通いの場・サロンなど）」への関心が特に高いことがわかりました。



「令和4年度 地域福祉推進
基礎組織(地区ふくしの会)
活動調査」回答結果の一部



【実施計画3】 地域を良くするために話し合える場をつくろう

●市全域にて地域福祉推進基礎組織(地区ふくしの会)会長研修会 実施



～研修会の様子～

市内に36の基礎組織が設立され、3年が経過したことを契機に、市域単位での研修会を実施しました。

当日は、講師の話を聞き、福祉活動の知識を深めるとともに会長同士で日頃の情報交換を行い、活動充実に向けての学びを深めました。

今後も市全域での会長研修会や情報交換会は継続していく予定です。

【実施計画4】 災害時も安心できる地域をつくろう

●坂井市災害ボランティアセンター設置・運営訓練を実施

本年度は、災害ボランティアセンターの運営強化を目指し、2回シリーズで「災害ボランティアセンター」の設置運営訓練を行いました。

1回目の研修では、センターの役割や運営について座学で理解を深めるとともに、参加者同士の情報交換を行いました。2回目の研修では、実際の各種団体が実際にセンターの各ブースの運営担当者として、ボランティアのコーディネート業務等のシュミレーションを実施しました。また、本年度は運営の効率化を図るために、新たにICTを活用した登録システム等を導入し、シュミレーションを実施しました。

2回の研修をとおり、連絡会の参画団体からは、平常時からの各種団体の情報共有・連携やICT等も含め、実地訓練を定期的に行い、災害に備えることが大切であるとの意見がありました。



～災害ボランティア連絡会主催の災害ボランティアセンター設置運営訓練の様子～

基本計画3

福祉活動を応援する体制づくり

【実施計画1】 住民と専門職のつながりをつくろう

●重層的支援体制整備事業評価ワークショップの実施

坂井市地域共生社会推進会議委員長の同志社大学 永田祐教授らの調査研究のフィールドとして坂井市が選定され、「重層的支援体制整備事業の評価ワークショップ」を実施。

支部社会福祉協議会委員会やボランティアセンター運営委員会等の住民代表者や社会福祉法人連絡会等の民間代表、行政の市民協働・福祉関係課職員やコミュニティソーシャルワーカー等の社協職員が参加し、武蔵野大学 助教の清水 潤子先生のアシレーションのもと、住民と専門職が交わりながら意見を交換し、坂井市での「地域づくり」の目指す姿を模索しました。

この研究は、令和5年度から7年度までの3年間をかけての実施が計画をされており、今後も住民と専門職がお互いの垣根を超えて「地域の中で住民活動と専門職の支援体制がつながりあった包括的な支援体制を整備するためにどのように地域をつくっていく必要があるのか」などをテーマに地域づくりの取り組みについて検討をしていく予定です。



～ワークショップの様子～

●坂井市地域福祉活動計画(第3次かたいけのプラン)中間評価の実施



～市地域福祉計画・活動計画推進委員会の様子～

本年度は、第3次計画推進期間の中間年度ということで「坂井市地域福祉計画・活動計画推進委員会」を2回開催し、計画の進捗評価を行いました。

委員会開催日までには、支部社協委員会での計画の進捗評価や市域の支部社協委員会連絡会の実施、ボランティアセンター運営委員会のセンター取り組みの見直し、各地区の福祉委員

会や地域福祉推進基礎組織での意見集約を行いました。

その結果、今後3年間（令和6年度～8年度）の後期計画では、特に「こどもと地域を繋げる活動」や「多様な相談に対応できる仕組みにつながる活動」に特に重点を置くことを目標として決めました。

（詳しくは、10ページをご覧ください。）

【実施計画2】 民間の福祉活動を広げよう

●社会福祉法人連絡会にて研修会を実施

社会福祉法人連絡会の主催にて、地域に根差した法人の活動強化や法人間のつながり強化を目指した研修会が開催されました。

当日は、同志社大学の空閑 浩人教授による講義と坂井市内の実際の事例についての検討を保育・障害・高齢の分野を超えて行い、地域内の課題解決を考える機会となりました。

社会福祉法人連絡会では、今後も民間の力を高めるための様々な事業を計画し、実施していく予定をしています。



～社会福祉法人連絡会研修会「地域支え合い推進セミナー」の様子～

【実施計画3】 地域福祉の財源を確保しよう

●共同募金あり方検討委員会の実施

「地域を良くする仕組み」として毎年実施している「赤い羽根共同募金運動」は、地域の福祉活動を応援する貴重な財源です。

しかし、近年は自然災害における募金の増加や社会環境の変化により、目標額が達成できていない現状となっており、坂井市の地域福祉活動への財源の維持・継続が難しくなってきました。

そこで、各種団体の代表者に協力いただき、今後の「共同募金運動のあり方」を考える検討委員会を設置しました。検討委員会は4回の会議にわたり協議・検討を行い、「共同募金運動」や「助成方法の見える化」を強化するための現状課題や解決方法の案を提言書にまとめ、坂井市共同募金委員会に提出しました。



～あり方検討委員会からの提言書提出の様子～

第三次 坂井市地域福祉活動計画(かたいけのプラン) 中間評価〈概要〉



地域福祉活動計画とは・・・

「地域共生社会の実現」を目指し、地域住民、ボランティア、関係機関等の協働による住民主体の地域福祉活動を計画的、具体的にすすめていくことを目的とした行動計画です。

第3次計画推進期間 令和3年度～令和8年度

基本目標は

「みんなが主役 ふだんのくらしの しあわせづくり」

～後期（令和6年度～令和8年度）計画推進期間は～



〈重点活動1〉

こどもや学校と地域をつなげる仕組みづくり

具体的には

福祉教育に地域の方が参加したり、まち協の行事にこどもが参加することで、こども（学校）と地域がつながる機会を増やす

〈重点活動に込められた想い〉

「こどもは大切」と多くの地域の活動者が考えています。しかし、最近はこどもが減少しており、ふれあう機会も少なく、こどもの気持ちや意見を聞けていないことを課題に思っています。まずは、こどもの声を聞けるように、つながりたい。できれば、こどもに地域を好きになってほしい!!との思いから決まりました。



〈重点活動2〉

多様な相談に対応できる仕組みづくり

具体的には

必要な情報が必要な人に届くように、地域内に相談窓口等の情報を知っている人を増やす

〈重点活動に込められた想い〉

ひとことで相談といっても、解決策を知りたい人、話だけを聞いてほしい人など、相談者の層がいくつかあるように感じています。時として、相談者の望みは様々ですが、支援が必要となった際に、サービスの詳細というより相談窓口を知っている住民が身近にいて、助けてくれる、そんなつながりを常日頃の中でつくれたらという思いから決まりました。



支部地域福祉活動計画

～本年度は、各支部住民福祉活動計画の中間評価（まとめ）を掲載します～

第3次みくに支部 住民福祉活動計画

【スローガン】

やさしさと あたたかさで
みんなが安心して住める街 みくに

1 居場所づくり

具体的な取組み内容

- 【身近な場所に集いの場をつくろう】
- 【集いの場の参加者を増やそう】
- 【集いの場の支援者を応援しよう】

今後の3年間の重点事項

- 設置目的と手法の検討

令和3～5年度の取組みについて

良かった点・ 取組の進みを感じた点

- ・空き家を使った居場所
や定例開催（週1回
頻度）の居場所が新た
にできた

改善が必要と感じる点

- ・新しい居場所がみくに地
区内に偏っており、他の
地区は増えていない
- ・歩いて行ける範囲に居場
所/買物ができる環境が
必要
- ・障がい者等が対象の
居場所は増えていない

＜重点事項の理由＞

- ・場があっても交通の便等がなく、行けない人がいる
（こども食堂は加戸しかない。市外では学校を会場に行っているところもある。／シルバー
カーの高齢者などは天気が悪いと来れない。イータク利用が難しい。）
- ・出張サロンや移動販売車も居場所の要素がある
- ・場に来る目的も人によって異なる
（買い物目的で移動販売車の来る日に来ることも居場所への参加）

2 つながりづくり

具体的な取組み内容

- 【ふだんのつながりを大切にしよう】
- 【今あるつながりを強化しよう】
- 【新しいつながりをつくろう】

今後の3年間の重点事項

- 世代間を超えたつながり
- 情報収集と整理

ご近所の助け合いをはじめ、顔の見える関係がなくなりつつあります。

支え合いの気持ちを育むために、人と人、人と地域、
団体同士等、様々なつながりづくりを行います。

令和3～5年度の取組みについて

良かった点・ 取組の進みを感じた点

- ・村部では会に未所属でも、
畑などでの高齢者のつな
がりを確認できた
- ・あい愛まつり mini を再開
し、フードドライブの提供物
を通じて、様々なつなが
りができた

改善が必要と感じる点

- ・単独の活動は増えたが、
それぞれの活動がつな
がっていない
- ・地域とつながりたいと
言っていた寺等での居
場所（母子グループ）と
つながっていない

＜重点事項の理由＞

- ・地域に各世代が交わる機会が少ない（学生の参加・協力を学校等にも方法等相談したい）
- ・活動を対象者で分けず、世代を超えることでお互いが役割を持てたり、楽しみになる（高齢者が
昔遊びを伝承、こどもがスマホ等の使い方を教える等、各世代に伝えられることがあるのでは）
- ・各団体、すでに様々な取組みをしている
- ・校区＝コミセン・まち協とは限らない（何を目的に活動するかでエリアが変わる）

3 地区ふくしの会の 充実

地域の抱える課題が多様化、複雑化しています。より身近な地域で生活課題を発見し、解決するために、三国町内 19 ヶ所にある地区ふくしの会の充実を図ります。

具体的な取組み内容

- 【地域の福祉課題について話し合おう】
- 【地区ふくしの会の構成メンバーについて考えよう】
- 【見守り活動を強化しよう】

今後の3年間の重点事項

※他の計画内容の重点事項の取組を実施

令和3～5年度の取組みについて

良かった点・ 取組の進みを感じた点	改善が必要と感じる点
・高齢者同士が相談し合っている様子が確認できた	・会（シニアクラブ等）に所属していない人は、情報が届きにくい ・平常時に地域行事の参加の機会が少ない、もしくは参加に支援が必要な人の支援（高齢者・障がい者・ひきこもり等）

4 安心して暮らせる 地域づくり

近年自然災害が多発し、暮らしの中でも様々な問題が生じています。

普段から話し合い、理解することで、みんなが安心して暮らせる地域づくりを目指します。

具体的な取組み内容

- 【防災意識を高め、安心・安全な地域をつくろう】
- 【移動手段について話し合おう】
- 【住み慣れた地域での生活を守ろう】

今後の3年間の重点事項

- こどもの見守り
- 認知症の方の見守り
- アプリなどの活用

令和3～5年度の取組みについて

良かった点・ 取組の進みを感じた点	改善が必要と感じる点
・こども食堂などのこどもが安心して過ごせる居場所ができた	・こどもも親も学校も最近は何事も多く、気を張って生活している ・こどもが安心して外で遊べるような見守りも重要

<重点事項の理由>

- ・地域の人とこどもがお互いに顔を覚える機会になる（バス通学は機会がない）
- ・学校に近い地区は見守りが必要だと思うが、遠方はバス利用の児童が多いため、学校から遠いところでの見守り人員は必要か一概に言えない。効果的な見守り方法の検討が必要。
- ・三国町内で若年性認知症や徘徊問題が増えている
- ・アプリ等のツールの確認（アップデートしないと使えないことは課題）

第3次まるおか支部 住民福祉活動計画

【スローガン】

広げよう地域に根ざした思いやり
～一人も見逃さない絆づくり～

<基本方針>

地域にあるつながりを活かし、また新たなつながりを得ながらネットワークを築き、地域の絆づくりに取り組みます。

1 つながりづくり

具体的な取組み内容

- 【一人ひとりのつながりや強みを活かして地域を元気にしよう】
- 【「ひとり（孤独）」にしない地域の絆を深めよう】
- 【高齢者や障がい者、母子・父子・寡婦等の当事者活動を地域で応援しよう】

今後の3年間の重点事項

- 参加する人が関心を持てる企画の検討

ご近所をはじめ、身近な地域でつながりが希薄化しています。「お互いさま」を広げるために、つながりの再構築に取り組みます。

令和3～5年度の取組みについて

良かった点・ 取組の進みを感じた点	改善が必要と感じる点
・丸岡バスターミナルでイベントが盛んに行われている ・グラウンドゴルフ場が憩いの場になっている ・地域をまたいで活動者が繋がりつつある ・福祉関係者の障がい理解が少しずつ広がっている	・一人ひとりの意識の変化や責任を持った行動が重要 ・サロンや居場所の推進（趣味を通じた集まり、男性が参加できる場など/様々な年代による企画立案） ・担い手不足対応策（活動ポイント、有償ボランティア、団体支援をする事務局等の設置など）

<重点事項の理由>

- ・丸岡観光と歴史的なものを結び付け大人とこどもを集める企画検討中
- ・オンライン上でのつながりなど方法が多様多様になっている。しかし、オンライン上でのつながりのみの方は地域内では孤立している懸念もある。

2 連携づくり

潜在する地域課題は、地域だけで発見・解決できない場合も少なくありません。地縁組織の連携強化を図るとともに、多様な組織等とのネットワークづくりに取り組みます。

具体的な取組み内容

- 【地域や分野を横断した連携を図ろう】

今後の3年間の重点事項

- 支部社協委員会の取り組み方法の検討

令和3～5年度の取組みについて

良かった点・ 取組の進みを感じた点	改善が必要と感じる点
・「0-99クラブ」とまち協、高校生が協働で清掃活動を実施 ・城のまち茶話会でいろんなアイデアが出された	・連携の強化 ・専門職と地域活動者の役割決めが難しい

<重点事項の理由>

- ・委員が交代すると活動の継続が困難になるため、支部社協委員会は直接的な実行部隊ではなく、動ける人を見つけて支援するほうが良いか
- ・地域内で社協自体が気軽に相談できる場所であることを知ってもらうために様々な場所や行事で啓発をしていく必要がある

3 見守りの仕組みづくり

具体的な取組み内容

- 【区長、民生委員・児童委員、福祉委員等の見守り活動を強化しよう】
- 【SOSをキャッチできる地域、SOSを出しやすい地域をつくろう】
- 【災害時に備えた土壌をつくろう】

今後の3年間の重点事項

- 法人の地域貢献
- 福祉委員活動の支援方法の検討
- 新しい見守り方法の検討

様々な社会問題を背景に、高齢者や障がい者等の生活不安が増加傾向にあります。そんな不安を一人で抱え込ませず、早期解決させるために見守りの強化に取り組みます。

令和3～5年度の取組みについて

良かった点・ 取組の進みを感じた点	改善が必要と感じる点
・丸い予防の研修や包括支援センターの出前講座など、各地で福祉についての研修が実施されている	・ご近所で状況が把握（配慮）出来ている状態づくり ・相談場所が近くにない ・防災意識が住民全体に広がらない

<重点事項の理由>

- ・法人連絡会で地域貢献したいと思っているが、課題が集まってこない（いろんな団体があるので、取りまとめる専門職などのキーマンがいると、町内で相談できるのでは。行政なども入った相談できる場所があるとよい。）
- ・福祉委員は2年交代や、少ない人数で多くの対象者を見守っているなど、地域によって委員の現状が異なるため、関与が難しい
- ・一人で多くの世帯を見守ること自体難しいため、隣近所へも声をかけての見守りをお願いするようにしているが、それ以上の活動を福祉委員にお願いすることは難しい
- ・緊急連絡先を作り、防災訓練を3年間継続し、活動が定着してきた区もある
- ・委員が交代して早い時期の3月にマップづくりを計画したり、サロン開催を啓発するなどの実行的な活動推進をしている基礎組織もある
- ・若い担い手がおらず高齢者ばかりの現状

4 こどもの参加・こころづくり

具体的な取組み内容

- 【地域で子どもと一緒に福祉の「こころ」を育もう】

今後の3年間の重点事項

- 協働方法の検討
- こどもと地域の結びつきづくり

地域に暮らす子どもと大人が、共に学び合うことで地域の明るい未来を築きます。次世代を担う子どもたちと一緒に、地域に触れながら「地域愛」を共に育む活動に取り組みます。

令和3～5年度の取組みについて

良かった点・ 取組の進みを感じた点	改善が必要と感じる点
・丸岡高校生が頑張っている ・まちづくり協議会と学校のつながりが強くなっている ・地区の体育祭に地元中学校が参加（磯部地区）	・年齢が高い子ども（学童対象外の高学年等）の遊び場がない

<重点事項の理由>

- ・丸岡高校はまち協をはじめとするいろんな地域行事に参画してくれているが、地域密着で生徒や先生が目指すことと地域のやりたいことが一致しているのか心配
- ・丸岡高校は現在、丸岡と結びつきがない生徒も多いため、小学校高学年から高校生まで小さな頃から自分の生活している地域を振り返ってもらう機会を作らなければ今後厳しいのではない

第3次はるえ支部 住民福祉活動計画

【スローガン】

思いやり 広がる地域に 幸せの輪

1 人財発掘・育成

具体的な取組み内容

- 【リーダーとなり得る人財を発掘・育成し、組織を強化しよう】
- 【福祉活動への参加者を増やそう】
- 【関わりを持とう】

今後の3年間の重点事項

- こども、老若男女、障がい者が一緒に取り組む企画
- 地域の役を多くの方が体験する機会づくり
- 居場所に参加している高齢者の地域での活動発表の機会づくり

リーダーの高齢化や担い手不足が課題となっています。リーダーを支える組織の基盤強化を図るとともに、福祉活動への参加きっかけづくりを通して将来の地域を支える人財を発掘育成しよう。

令和3～5年度の実施について

良かった点・取組の進みを感じた点

- ・ 情報交換や啓発（ネットワークを活かした人財育成、共募街頭募金など福祉活動への参加を促進して関心を高めた）
- ・ 地区ふくしの会長連絡会の会長同士の連携強化

改善が必要と感じる点

- ・ 多くの人に情報発信できること/多くの人に参加してもらえるようなネットワークづくり・定期的な情報交換の機会
- ・ 担い手、人財育成不足（人財発掘、育成の方法）

<重点事項の理由>

- ・ 小中学校と一緒にボランティア体験を実施し、将来の担い手育成を強化したい
- ・ 改選時も民生委員は担い手不足の状況、区長は持ち回りで、意識の高さは人により異なる
- ・ 福祉委員が継続することは意識向上につながる一方で、委員の固定化になる側面もあるため、多くの方が経験し、地域全体の見守り体制をつくることも重要（設置数を増加した区もある）
- ・ 1人が表に出るのではなく、運営者みんなで相談したり、参加者から意見を聞き、みんなで取り組むようにしている（春江西部まちづくり協議会）
- ・ 3月13日のまちづくり発表で、ほっとカフェの参加者が盆踊りを披露した（春江西部まちづくり協議会）

2 場づくり

自分の居場所や自分の強みを活かすことができる役割が必要です。誰もが気軽に参加して活躍できる多様な場づくりをすすめよう。

具体的な取組み内容

- 【集いの場を考えていこう】
- 【集いの場をつくろう】
- 【集いの場を広げよう・増やそう】

今後の3年間の重点事項

- まち協活動でのつながりづくり
- 多世代が集える居場所づくり

令和3～5年度の実施について

良かった点・取組の進みを感じた点

- ・ 多様な場づくりの推進（30代・40代・50代、地区を限定しない、まち協やまち協などと連携した居場所づくり）
- ・ 5地区で地区福祉委員会（つながり強化、孤立防止）

改善が必要と感じる点

- ・ 「運営する側」「参加する側」ではなく、みんなで運営していくことにより場の継続を保つこと
- ・ 30代・40代による運営者の不安増加

<重点事項の理由>

- ・ 各まちづくり協議会で、男女年齢問わず集える場や高齢者の健康づくり、つながりづくりなど、定期的に参加できるいろいろな活動の場づくりをしている。場づくりがうまくできると人とのつながりが生まれると考え、楽しく遊ぶことを通して、人のつながりづくりができるよう企画を工夫し、高齢者だけでなく多世代の居場所も増やしていきたい

3 つながりづくり

地域のつながりの希薄化が課題となっています。身近な住民だからこそその支ええる活動を推進するため、福祉のつながりづくりを再構築しよう。

具体的な取組み内容

- 【新しいつながりづくりについて考えよう】
- 【現在のつながりを強化しよう】
- 【日常的な関わり合いを大切にしよう】

今後の3年間の重点事項

- つながりづくりにつながる企画の検討
- 支部社協委員会での計画推進方法の検討
- 情報交換・発信の機会
- コミセンとのつながり強化

令和3～5年度の取組みについて

良かった点・ 取組の進みを感じた点	改善が必要と 感じる点
・当事者と福祉関係者（福祉委員）とのつながりを実感 ・支部社協のネットワークを活かした連携強化 ・支部ボランティア連絡会の開催（コロナの影響にて5年ぶり）	・ご近所同士で挨拶をする心がけ/孤立防止 ・各団体の情報交換ができる場・会議を増やす ・「支える」「支えられる」の垣根を超えたつながり

<重点事項の理由>

- ・祭りやイベントなど地域ぐるみで取り組む活動の強化により、若者と高齢者とのつながりが生まれる
- ・少しでもつながりがあることで情報交換や情報発信ができ、助け合いや相談につながる
- ・支部社協委員会は活動を行うのか、ミーティング等を話し合い、計画達成にむけて各団体で工夫し活動を行うのか立ち位置の明確化が必要。成果・課題の見える化を図ることも重要
- ・計画達成の話し合いには地域の各団体の活動を広く理解してもらうことが重要
三国・丸岡では一般市民に広く情報発信するイベント（あい愛まつり・ボランティアのつどい）があるが、春江は情報発信を各団体に任せているように感じる
- ・ボランティアカフェなど、誰でも参加できるイベントを主主体に実施回数を増やしていきたい
- ・また、まちづくり協議会のネットワークを活用し、情報発信したことで参加者が増えた
- ・具体的な活動事例の発表等の企画が、活動促進につながる
- ・団体同士の交流を図り、お互いの理解を深めたい

4 見守りの強化

高齢者の孤立や孤独死、認知症や老々介護等、見守りを必要とする人が増加しています。地域全体で見守りや困りごとの早期解決に向けて取り組む活動を充実させていこう。

具体的な取組み内容

- 【福祉マップや災害時要援護者支援制度を浸透させよう】
- 【支援に必要な関係者のネットワークを充実させていこう】
- 【見守りネットワークを広く周知していこう】

今後の3年間の重点事項

- 困りごとを気軽に相談しあえる関係づくり

令和3～5年度の取組みについて

良かった点・ 取組の進みを感じた点	改善が必要と 感じる点
・区民福の三者連携強化 ・全地区にて見守りマップ作成 ・個別調査など実施地区あり ・見守り協力者の促進や老人家庭相談員連携 ・災害時行動要支援者制度やハザードマップなどの研修（災害時を想定して防災知識を深めた/企業と連携地区もあり）	・理解不足（個人情報の問題、活動の継続性） ・三者以外との連携（見守り協力者の確保、拡大） ・災害時における具体的な取組検討（個人情報の問題、専門職との連携、災害訓練への当事者参加）

<重点事項の理由>

- ・最近では世帯内でも複合的な課題（高齢だけでなく、障がいや生活困窮も絡んだ問題）が増えており、包括やサービス等だけでは解決できない問題が増えているため、地域の見守りが重要
- ・高齢者等が孤立していかないようにコミュニケーションを取る場や機会を定期的にもちたい

第3次さかい支部 住民福祉活動計画

【スローガン】

「かたいけの」「おかげさんで」
ぬくもり感じるまち 坂井

1 福祉の理解促進

地域 みんなが幸せになるためには、福祉を正しく理解し、活動者を増やす必要があります。福祉情報を地域住民に発信し、理解促進を図りましょう。

具体的な取組み内容

- 【自分たちの活動をPRしましょう】
- 【福祉に限らず多様なメニューや事業へできるだけ多くの地域住民の参加を呼びかけましょう】

今後の3年間の重点事項

- 地域の組織の整理
- イベント企画による参加の機会の増加
- 役割分担や交代の仕組み作りによる参加の機会づくり

令和3～5年度の取組みについて

良かった点・ 取組の進みを感じた点	改善が必要と感じる点
・30+5類型へ変更後、30+や敬老者の集いが数多く再開され、地域の取組みがしっかりしてきていることを実感 ・こども食堂の運営に若い父兄の参加がある ・まち協のイベントなど楽しく参加できる機会が増え、ボランティアの輪が広がってきている	・楽しめる目的をしっかりと実現できるリーダー育成 ・次の世代の担い手、リーダー育成 ・参加者が決まっているため、出てこない人を引き出す支援

<重点事項の理由>

- ・地域に組織や似ている活動が多すぎるため整理が必要（各団体それぞれのワークショップ、まちづくり協議会、丸岡駅活性化グループなど）
- ・活動に参加する機会や呼びかけを行う（所属なしでの気軽な参加や、こども食堂等の活動へのボランティア呼びかけなど）
- ・地域内の世代間ギャップ等も大きいいため、多くの人が役割を分担・交代・参加する仕組みが必要

2 居場所づくり

核家族・単身世帯の増加、自治会機能の低下により、つながりの強化が必要になっています。つながる機会づくりとして、それぞれが望む居場所づくりをすすめてみましょう。

具体的な取組み内容

- 【集まる場所（高齢者加等）を実施・充実させましょう】
- 【集まる場を運営するお世話役（キーパー）を育てましょう】
- 【閉じこもりがちの人が集える居場所づくりの工夫をし、気になる人がいたら、専門機関へつなげましょう】

今後の3年間の重点事項

- ミニコミュニティ・区民館等の活用方法の拡大
- 楽しめる場づくり
- 居場所づくりのリーダーの育成

令和3～5年度の取組みについて

良かった点・ 取組の進みを感じた点	改善が必要と感じる点
・丸岡駅で色々な居場所づくりがされている（生徒の作品展示、高齢者の居場所、ポスターなど広報） ・こども食堂が誕生（木部・大関）	・ただの場づくりではなく、人があつまる「楽しみ」が実感できる場づくり ・ミニコミュニティの行事参加が、地元より他地区の参加が多くなってきている→地元の住民が積極的に参加できる企画

<重点事項の理由>

- ・坂井中学校との交流会にて、生徒からミニコミュニティは高齢者の居場所という意見あり。若い世代（小・中・高）が集える、使える場所が必要
- ・担い手、参加者がおらず、農業の合理化等で地域住民がつながる機会も減少している
- ・団体を巻き込み、見守りを進める上で核となる人材育成を行う

3 見守り

安心安全の地域の実現には、互いに支え合うことが必要です。誰もが安心して過ごすことができるよう見守りをすすめましょう。

具体的な取組み内容

- 【平常時だけでなく災害時も支え合いましょう】
- 【地区ふくしの会（地域福祉推進基礎組織）等の福祉活動へ地域住民（委員OBや隣近所の方含む）やボランティア団体に参加してもらうことで、つながり、支え合う“共助”意識を高めましょう】
- 【区長、民生委員・児童委員、福祉委員等が中心となりマップづくりを行い、地域の中で気になる方を共有し、支援体制や連絡方法等確認し合ひましょう】

令和3～5年度の取組みについて

良かった点・取組の進みを感じた点	改善が必要と感じる点
・全地区で見守りマップ作成 ・見守りマップを活用し、熱中症予防や悪徳商法のチラシ配布を実施	・民間企業（郵便局・宅配便・新聞配達等）との見守り協定

今後の3年間の重点事項

- 災害時（平時）での地域関係者や近所の情報共有・支え合いの体制づくりの強化
- 実践的な災害訓練の企画
- 見守り活動の具体的なメニュー化
- 見守りのリーダーの育成
- ふくしマップの災害時活用の検討
- 支部社協委員会での災害時行動の検討
- 福祉委員の資質向上
- 避難所体制づくりと区民への周知

＜重点事項の理由＞

- ・地震を経験し、自分たちにできる災害時の助け合いの再認識が必要と感じた
- ・様々な災害を想定し、具体的に行動計画にすることが大切
- ・発災時の早期対応が安心につながると考えると、マップの災害時活用の準備や徹底が必要
- ・発災時に区民館を開放したが、誰も来なかった。発災時に区民館に全員来れば、その場で安否確認ができる
- ・各福祉委員が自身の役割や計画の理解不足な点もあり、資質向上のための取り組みが必要
- ・民間企業との協定だけを目標にせず、自分たちが主体的に進める具体的な取組みも必要

4 福祉の学び

福祉を充実するためには、こどもから大人まで学びあうことが必要です。こどもから大人まで地域 みんなが福祉を学ぶ機会をつくりましょう。

具体的な取組み内容

- 【各種団体間の連絡会等、地域活動の情報交換や参画する機会を増やしていきましょう】
- 【学校と地域が連携して福祉活動を行い、新たな担い手をつくりましょう】

令和3～5年度の取組みについて

良かった点・取組の進みを感じた点	改善が必要と感じる点
・マイリンク（兵庫地区 こども福祉委員活動）で高齢者も含めたカフェの取組みが実現 ・坂井中学校がまちづくり活動を行い、こどもの頃から自分の町を知る、好きになる機会を作っている	・世代間でコミュニケーションギャップが生じているように感じる ・居場所や世代間交流の機会づくり

今後の3年間の重点事項

- 地域の歴史等を伝える
- 各団体との連携
- こどもと高齢者が一緒に過ごす機会づくり
- 地域の取組みの情報共有

＜重点事項の理由＞

- ・地域の歴史の伝承など、地域のことを深く知ることで郷土愛がうまれる
（例：小中学生等での地区の歴史の紙芝居披露）
- ・こどもは習い事があり、声かけにくく、一緒に過ごせる機会が少ないため企画の検討が必要
- ・ピクトの草むしりなど、地域活動の中での学びもあるので、各団体との連携が大切
- ・地区ふくしの会などの研修会で、地域の取組み（こども食堂やマイリンクさかいなど）を取扱い、地域内の活動の情報共有を行う

STORYS～ストーリーズ～

表紙を彩る主役たち

（上段左）坂井市ボランティア・市民活動センター運営委員



- ・坂井市内において、地域福祉活動に必要なボランティア・市民活動の啓発、推進を図ることを目的に設置を行っている「坂井市社協ボランティア・市民活動センター」の適正な運営を図るため、運営委員を設置しています。

- ・運営委員は、センターの運営についての意見だけでなく、「ボランティアつながり会」など、活動への興味・関心を広げる事業企画なども行っています。

（上段右）市内小中学校の児童



- ・毎年、坂井市内の小中学校 全24校が学校募金を集め、共同募金に協力してくれています。

- ・写真は、東十郷小学校の児童のみなさんです。

（下段）支部社会福祉協議会委員

・坂井市における住民主体による地域福祉を推進するために幅広い地域住民の参画を得、支部ごとに小地域福祉活動を行うことを目的に設置している支部社会福祉協議会の活動等を検討する委員のみなさまです。任期は2年にて、地域住民関係団体やボランティア活動者や福祉活動関係者、当事者団体代表、専門職など、幅広い地域関係団体の代表者に参画頂き、支部内の地域福祉活動の協議・検討を行っております。



～みくに支部社会福祉協議会委員会～



～まるおか支部社会福祉協議会委員会～



～はるえ支部社会福祉協議会委員会～



～さかい支部社会福祉協議会委員会～

第6期(任期：令和4年4月1日～令和6年3月31日)委員のみなさま

写真は、第6期の委員のみなさまです。令和6年3月末にて任期満了となりましたが、在職中には、支部住民福祉活動計画の進捗確認や見直しに対するさまざまな検討、また、より地域を良くするための積極的な福祉活動の企画立案等、各支部の地域福祉推進の顔として、ご活躍頂きました。

令和6年4月からは、第7期委員の任期がスタートとなりますが、これまでの地域福祉活動を継承しながら、今後の活動を進めることが出来るよう、みなさまのご支援・ご協力に感謝申し上げますとともに、今後とも活動へのご支援・ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。



***** 「かたいけのプラン」に込めた思い *****

『かたいけの』とは、昔から、福井に伝わる方言です。

『かたい』は、健康である様を表しており、「お元気ですか？」という意味のあいさつとして「かたいけの？」と使います。

最近、耳にすることもすっかり減りましたが、身体の状態を尋ねるだけでなく、心の状態も気遣うことができる、優しい福井弁です。

相手を思いやる気持ちが、本計画にピッタリでないかということで、策定委員会で決まりました。